



Special Feature

特集

老健施設における 摂食嚥下リハビリ

口腔や栄養に関する取り組みについては、自立支援や重度化防止に資するという観点から、介護報酬での評価が高まっている。老健施設で、管理栄養士や言語聴覚士の配置が評価されるようになったこともその一環といえる。

口腔や栄養の専門職が活躍する「摂食嚥下リハビリ」は、誤嚥性肺炎の予防だけでなく、口から食べることを支える重要な取り組みであり、自立支援・重度化防止にもつながる。本特集では、老健施設で摂食嚥下リハビリに取り組む意義や期待できる効果について考えたい。

インタビュー1

多職種がそろった老健施設が 地域の摂食嚥下リハビリの引き上げを

菊谷 武さん

一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会 理事

日本歯科大学 教授、日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

インタビュー2

「摂食嚥下リハビリテーション 栄養専門管理栄養士」の 老健施設での活躍に期待

加藤すみ子さん

公益社団法人日本栄養士会 理事（福祉職域担当）

レポート

言語聴覚士と管理栄養士が主動で進める 多職種協働の摂食嚥下リハビリ

介護老人保健施設みんなの笑顔（東京都）